

# 道博協ニュース

## 第39号

発行所 北海道博物館協会  
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

### 第三一回北海道博物館大会

#### 終了する

平成四年度の第三一回北海道博物館大会は、七月一日、二日の両日、道北の宗谷管内

日置順正氏（斜里町）、岡崎由夫氏（釧路市）の二名が受賞された。

浜頓別町において開催された。参加者は一五八名と、これまでの大会中最多を記録した。昨年の苫小牧大会（一六〇名）とほぼ同規模の大会となった。

十一時過ぎより、日本博物館協会専務理事の毛利正夫氏より「日本における博物館の現状と課題」と題する特別報告をいただき、午前の部を終了した。

大会一日目は、九時半から開会式、ついで十時過ぎから総会に入り、平成三年度事業報告、同会計収支決算報告、および会計監査報告がなされ、共に承認をうけ、ついで平成四年度の事業計画、会計収支予算案がいずれも原案どおり可決された。また、平成五年度の第三二回大会は、空知の滝川市において開催されることが決定した。

午後一時より「自然・歴史・文化・そして博物館」のテーマで、北海タイムス社文化部部长宮内令子氏による講演に移り、同社の『北の博物館』（平成三年六月）取材で道内各地の博物館を訪ねた経験に基づき感想の一端をうかがうことができた。

続いて、昨年から設けられた協会表彰規定にもとづく協会表彰に移り、第二回目となる今回は、永年にわたり地域博物館活動の発展に貢献されてきた若山徳次郎氏（函館市）、

豊（浜頓別町町史編纂専門員）、井下守和（浜頓別町助

役）、矢吹俊男（倶知安町教育委員会）、野村康裕（風連町歴史民俗資料館運営協議会）の諸氏よりそれぞれ報告をいただき、これをもとに五時まで討議が続けられた。

生花園、クッチャロ湖畔と湖畔にある白鳥の舎、古代の杜をまわり、最後にウソタンナイ砂金公園を見学、十一時四〇分過ぎ、福祉センター前で解散となった。現地見学では、町内で野生動植物を観察し続けておられる山内 昇氏と、郷土史研究家の佐藤 豊氏の説明をいただき、わが国三番目のラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）の登録湿地指定となったクッチャロ湖と、明治三一年以来、枝幸砂金の主産地であったウソタン砂金地の遺跡がある同町の自然と歴史について理解を深めることができた。



二日目は、九時一五分福祉センター前を出発、ベニヤ原

過ぎまで、なごやかな雰囲気のもとに参加者の交流が深められた。

二日目は、九時一五分福祉センター前を出発、ベニヤ原

は、事務局側の準備体制が例年に比べて遅れたにもかかわらず、前年度同様の参加者のもと、二日間にあたる全日程を盛会裡に終了させることができた。大会準備に奔走された地元浜頓別町教育委員会の関係者の方々のご尽力に感謝する次第である。

（事務局）

## 第三二回道博物館大会に参加して

「ずいぶん集まりましたね」という言葉が会場のあちこちで聞かれた。遠い道北の浜頓別町に、百五〇名もの北海道の博物館関係者が集ったのである。これを北海道の博物館人の心意気の現れと、私はみている。

ここでは、フォーラムについて感想めいたものを書きたいと思う。

フォーラムのテーマは「自治体における博物館の建設について―地域の風土と歴史に根ざした博物館づくり―」であった。報告者は地元浜頓別町で博物館をつくらうと情熱をかたむける山内 昇(浜頓別町文化財保護委員)、佐藤 豊(同町町史編纂専門員)、井下守和(同町助役)の各氏、

倶知安町の博物館計画を担当している矢吹俊男氏(同町教育委員会)、そして風連町歴史民俗資料館の運営にボランティアとして協力している野村康裕氏(同館運営協議会委員長)の五名の方々であった。

今回のフォーラムのユニークさは、報告者がすべて「博物館人」(狭義の)ではないという点にあった。

山内氏は、長年のクツシヤ口湖での白鳥の保護活動を、佐藤氏は浜頓別の先史からの歴史を、井下氏はラムサール条約の登録地であるクツシヤ口湖を背景に野鳥博物館をと

の構想を語られた。

矢吹氏は、倶知安という町にとつてどういう博物館が必要なのか構想確定に至る過程を語った。

「すばらしい博物館」とは



どんな博物館だろう。「生き生きした博物館」、これが「すばらしい博物館」の一つの要件であろうと、私は思う。「生き生きした博物館」を産み出す原動力が、そこに開く「人」にあることは間違いない。

道内には開基を記念して建てられた郷土館や資料館が沢山ある。建物は立派だが人の気配のないところも多い。訪れる人も支える人もいないのであろう。

浜頓別という小さな町に自然と歴史に精通した山内氏や佐藤氏のような人物がいることは羨ましい。なぜなら浜頓別にはすでに博物館を支える立派な人材がいるからである。

これは博物館をつくる上で非常に有利な条件である。やがてここに「生き生きした博物館」が誕生することを予感させる。

倶知安町内外の多くの人の知恵を博物館づくりに結実させて行くという矢吹氏の「手口」を、博物館づくりに関わる人は見習わなければならぬ

であろう。この活動を通して倶知安には博物館を支える人たちを着実に作られているのである。間もなくここに「生き生きした博物館」が誕生するであろうことも予想できる。

学芸員のいない資料館を町



館では、三年前から自然観察ガイド養成講座をはじめ、博物館のお手伝いをしてもらう人を養成しはじめたところである。この三年で百名以上の人々が受講している。これは博物館を支えてくれる人が、決して少なくないということ物語っている。

今回の「博物館人」でない人によるフォーラムは、北辺の地に集った博物館人にいろいろな刺激を与えたに違いない。「博物館人よ、ぬるま湯に浸かっていてはいけない」との思いを胸に、私は長い帰路についた。

民の有志が知恵を出し合い運営しているという野村氏の報告は、驚きであった。三十数名の展示解説ボランティアがいるという。これだけの人が支える資料館はまさに、「生き生きした博物館」である。ここへ辿りつく道は平坦とは思えないが、この手法は他の郷土館、博物館でも取り組まれるべきであろう。私の

【付記】このフォーラムに先立って行われた宮内令子氏(北海タイムス社文化部長)の講演も博物館人にとつて刺激的であった。後日刊行になる報告書をぜひご覧いただきたい。また北海道新聞情報研究所の時任生子氏が、北海道新聞一九九二年七月十三日夕刊に本大会についてレポートを書いている。ご一読いただきたい。(上士幌町ひがし大雪博物館 学芸員 川辺百樹)

## ラクスマン根室来航二〇〇年事業

丁度二〇〇年前のラクスマンの根室来航は、北海道や根室市の歴史の上で、世界史に登場する重要事項である。

おりしも今、日本とロシアは領土問題の解決の兆しが見え、新しく友好の時代を迎えようとしている。

また井上靖の小説「おろしや国酔夢譚」が映画化され、これに関連して、ロシアへの漂流民大黒屋光太夫やラクスマンがTV、マスコミなどで話題にもなっている。

このような状況の中で、今私どもの根室市博物館開設準備室が火つけ役となって、各種の事業を展開し、街の発展に結び付けようと試みている。以下、その取り組みの一



エカテリーナ号  
(根室市博物館開設準備室蔵)

端を紹介したい。まず最初の取り組みは、私が八五年前から、根室市の広報の「学芸員日誌」という欄に、ラクスマンや大黒屋光太夫について数回にわたり書いたことから始まった。

こうした歴史的事実の重要性を認識し、街おこしに活用しようとしたのが、根室商工会議所のふるさと運動推進本部であった。私もそのメンバーとなり、資料収集を行ない始めた。この時点で大黒屋光太夫の出身地である鈴鹿市の研究者とも連絡がとれ、手紙のやりとりが続き、情報を交換しあっていた。

九一年春になって、ふるさと運動推進本部が中心となってラクスマン根室来航二〇〇年記念事業実行委員会準備室が招集され、民間サイドから事業を展開しようとする動きが活発になってきた。

ふるさと運動推進本部では具体的な事業として、大黒屋光太夫の足跡を追った権名誠

のTV番組「シベリア大紀行」のビデオ上映、市内の小中学校に関係図書や寄贈等の事業を展開していった。

行政側では、国際交流担当

主査と私が、鈴鹿市を訪問し関連資料の調査、市と民間の取り組み等を調べてきた。この時、北海道新聞根室支局の記者も同行した。この記者の取材した記事が、数回に亘り新聞に掲載され、大変なPRとなっていくのである。

博物館開設準備室では、歴史講座のテーマに「ラクスマンの根室来航」を取り上げ、計五回延べ三〇〇人程の市民が受講した。さらに勤労青少年ホームでは、「タイムスリップ一七九二」という特別講座を開き、ラクスマン根室越冬のジオラマを一回にわたって、造りあげたのである。

さらに教育委員会が中心となって、市内の小中学生からラクスマンに関する作文とポスターを募集したのである。これに先立ち、子供向けのパンフレットを作成し、鈴鹿市で作成した大黒屋光太夫のビ



エカテリーナ号船長ロアフオフ  
(根室市博物館開設準備室蔵)

デオをタビリングして各学校に配布し、さらに図書館などでこのビデオの観賞会を数回実施した。また、同時に博物館開設準備室が収集した資料のパネル展示を市役所ロビー、公民館、図書館、郷土資料保存センター等で巡回展示を行った。

市内のある小規模校では、地域学習として、学校ぐるみで、ラクスマンの根室来航を取り組んでもいた。

これらをもとに、小中学生が作文を書き、ポスターを描いたのである。優秀者三名が私と鈴鹿市を訪れ、光太夫ゆかりの場所を歩き、鈴鹿市の小学生と交流した。

九一年秋、札幌の古書店の目録にラクスマンが根室に乗ってきた帆船エカテリーナ号と、その船長ロフツォフの絵が出たのである。実は根室市には、それまでラクスマンに

関する現物資料は一点も無かったのである。紆余曲折の末結局博物館開設準備室が、これを購入できたのである。

九二年になり、根室市あげ

ての「ラクスマン来航二〇〇年記念実行委員会」が組織され、根室市の九二年度予算に關係経費が計上された。

九二年度の最初の事業として、長年ロシア史や漂流民を研究している立正大学の木崎良平先生による、ラクスマン特別講座「ラクスマンの根室滞在」を実施。二〇〇人の市民が受講し、丁度発売された木崎先生の著書「光太夫とラクスマン」も会場で販売された。さらに映画「おろしや国酔夢譚」の特別試写会が三日間計一二回上映され、五千人以上の市民が観賞した。また七月には、北海道・東北史研究会との共催で根室シンポジウムが開催された。

火つけ役の博物館準備室としては、まだまだやるべきことが残っているが、現時点での途中報告といたしたい。

(根室市博物館開設準備室)

学芸員 川上 淳

# 北海道博物館略史(8)

## (4) 北海道物産陳列場

明治二十四年(一八九一)、

函館に水産陳列場が開設されたことは、前回ふれたとおりであるが、今回は、明治二十六年、札幌の中島遊園地(現在の中島公園)内に開設された北海道物産陳列場について述べたい。

北海道庁がこの陳列場の計画に着手したのは、明治二十一年のことで、同年九月に「北海道海陸物産見本品陳列場規



北海道物産陳列場本館

則」を定めたが、開場日限は追って告示することにしていった。

この陳列場の建物の施工時期は明らかではないが、少なくとも明治二十四年迄には完成し、二十五年に開催された北海道物産共進会の陳列場(第一館)として利用されている。当時は道庁農商課主管の札幌陳列場で、実質的には既に物産陳列場の機能を果たしていたのである。

この建物は当初木造二四〇坪で、四二坪の事務所と八坪の物置が付いていたが、明治三十九年の北海道物産共進会後は、その時に新築した建物が新たに加わり、明治四十二年現在では、第一館(木造二階建二七九・五坪で明治三十九年の共進会の本館)、第二館(従来の陳列場で明治二十五年の共進会の第一館)、林業館(木造平屋三四・二坪で明治三十九年共進会の林業館)のほか事務所、職員宿舎、物

置など一八棟(合計七一七坪余)があった。

この陳列場は、道庁内務部(明治三十年殖民部と改称)農商課の管轄で、三十四年三月迄は国費、同年四月からは北海道地方費で運営された。

明治二十六年二月に告示された「北海道物産陳列場規則」によると、この施設の目的は、「天産人工ヲ問ハス當道産出スル所ノ物品(但水産ノ部ヲ除ク)及一般事業ノ参考トナルヘキモノヲ廣ク蒐集出陳シ、治ク公衆ノ縦覧ニ供シ各業ノ進歩ヲ謀ル」ことにあり、水産陳列場のそれとほぼ同じであるが、水産陳列場の陳列品の範囲が「國ノ内外ヲ問ハス」としているのに対し、本場の場合は道内に限定している点が異なるといえる。

休場日は、本場は毎週金曜日で、十一月十六日から四月十四日迄の冬期間は休場とし、縦覧時間は、季節によって変えていた。

この規則は明治三十九年三月に改正され、収集、陳列品の範囲を道産品に限らず、府

県の物産や外国製品にまで拡大し、陳列のみにとどまらず委託販売も行うようになった。

時代の要求に応じて事業の充実を図ろうとしたのである。物産陳列場の列品は、初期には農業山林及園芸、礦業、工業の三区に大別し、各区を一五部に分類し、さらに各部を三〇〇類に分類している。水産関係は函館の水産陳列場で扱っているので、ここでは扱っていない。この分類は後に改められ、農業・畜産業・林業・水産業・鉱業・工業の六部に分類されるようになった。水産陳列場の規模が明治三十四年に縮小された結果、本場でも水産資料を収集・陳列するようになった。

明治四十一年一月現在の列品の総数は九、一〇三点で、その内訳は購入五、〇四八点、寄贈三、三〇二点、寄託品七五三点となっている。類別では、工業が最も多く三、二九二点、以下農業一、一三二点、水産業一、四一九点、林業一、四四四点、鉱業六七七点、畜産業三四〇点の順となっている。

明治四十一年の職員は、場長(道庁事務官)二人、幹事(道庁属)二人、委員(道庁技師)一人、同(道庁技手)三人、書記一人、看守長一人、看守九人となっているが、看守は開場期間に限って雇われていた。開場日数と入場者数は、開場初年度の明治二十六年が一八二日、一三、二一人であり、同四十一年が二二五日、四六、八四二人で、内容の充実と共に入場者も著しく増加していることがうかがえる。

### 〈主な参考文献〉

- 関秀志ほか「明治期における北海道の博物館(2)」(北海道開拓記念館調査報告)第二九号、平成二年三月、北海道庁『第七回勸業年報』(明治三十七年)、同『北海道物産陳列場要覧』(明治四十二年)など。

(北海道開拓記念館)

学芸部長 関 秀志

### 館 園 紹 介

#### 標津サーモン科学館

毎年、九月から十一月にかけて、標津町ではサケの定置網漁でにぎわいます。

おおよそ、五百万匹の漁獲量は、日本一を誇ります。

この時期、標津川には三千万匹ものサケがそ上します。

九月中旬の最盛期には、折り重なるように群れ泳ぐ様子を

見ることが出来ます。

その標津川の河口から上流一・二歳の右岸に「標津サーモンパーク」があります。

サケをテーマにしたこの公園は、三つのゾーンに分けられます。

一つは、サーモン科学館を中心施設としたゾーンです。

この科学館は、水族館と博物館の機能を兼ね備えた施設で、

大小の展示水槽には、世界のサケ科の魚二十六種類のほかに、

標津川の魚、近海の魚を展示しています。

その他には、サケの一生を描いたマルチスライドの上映、

パネル展示などがあります。

また、高さ三十六メートルの展望塔からは、北方領土国後島、野付半島、知床半島、大規模草地など北海道らしい雄大な風景が見られます。

標津川から引き込んだ魚道を泳ぐサケの群れを館内からガラス越しに見ることが出来るのも大きな特徴です(魚道

水槽は九月、十月の二カ月間観察可能)。

また、この魚道水槽では、十一月にはサケの産卵の様子

を見ることができ、二月から八月までは、サケ稚魚やヤマメ・オシロココマを展示しています。

二つ目は、大池、せせらぎ、

産卵池、風の広場、子供冒険の丘のある約二ヘクタールの公園ゾーンです。現在、工事中で、平成四年度中に完成します。

今年の春に、科学館で育てたサケの稚魚を公園内の小川に二十万匹放流していますので、三年後にはきつと公園の中に戻ってくるでしょう。

三つ目は、標津川右岸の河川敷ゾーンです(平成九年完成予定)。

ここには、アスレチック広場やパークゴルフ場、桜づつみなどが整備され、訪れた人たちが終日リフレッシュできる場となります。

標津サーモン科学館は、観光施設であるとともに社会教育施設でもあります。

昨年秋には、親と子供のサケ学習(サケの採卵、受精作業)を実施。今年の五月には、サケ稚魚の放流体験などの事業を実施しました。

#### サケのふるさと標津町

標津町は、現在、サケにこだわったまちづくりをすすめています。

サケの漁獲量日本一を背景に、サーモンパークはもちろんのこと、サーモンダービー(サケの舟釣り大会)、サケ

〈標津サーモン科学館案内〉

#### ★開館期間

二月一日から十一月三十日  
五月から十月は無休

二・三・四・十一月は、毎週水曜日休館。ただし、水曜日が祝日の場合は、翌日休館。

#### ★開館時間

午前九時三十分から午後五時まで  
(入館は四時三十分まで)

#### ★入館料

一般 六〇〇円(四八〇円)  
高校生 四〇〇円(三二〇円)  
小中生 二〇〇円(一六〇円)

\*カッコ内は二〇人以上の団体料金

#### ★交通

中標津空港から車で二〇分  
JR釧路駅からバスで二時間

#### ★お問い合わせ先

〒〇八六一一六  
標津町字標津

☎〇一五三八二一一四一

(標津サーモン科学館)

管理係長 鈴木邦夫

「活力あるまちづくり」優良地方公共団体として、自治大臣表彰を受けることができました。北海道では、池田町、夕張市に次ぐ受賞となりました。



大水槽を泳ぐサケの群泳



サーモン科学館全景

## 館園紹介

### 荒井記念美術館

岩内は、積丹半島の付け根に位置し、奇岩で有名な雷電海岸、そしてニセコ連峰の北端の岩内岳から雷電岳へと連なる岩稜は、「山ガモレアガル」という画家木田金次郎の言葉にあるように、海と山が交錯する複雑で変化に富んだ地形を生みました。

この風景を一望できる岩内岳の中腹に、荒井記念美術館は、平成元年六月に荒井記念館として開館しました。平成四年四月、増設二号館を加え、館名を現在の荒井記念美術館と改めました。



荒井記念美術館全景

当館は、館長荒井利三が、有島武郎の文学に感銘を受け、名作『生れ出づる悩み』の舞台である岩内に、美術館を建設したいという長年の夢が実現したものです。

美術館の前庭中央には、安田侃の大理石彫刻『天光散』があります。平成五年秋には、十名の彫刻が周辺の庭と館内に設置される予定です。

館内の紹介をします。一号館一階には二百席収容のコンサートホールがあり、年二回程度の演奏会を行ったり、貸ホールとしても利用されています。二・三階には、ピカソ版画二百六十七点のうち、約百点余が常設展示されています。

『青の時代』の代表作『貧しい食事』を含むサルタンバンク・シリーズから、晩年の画家とモデルのシリーズまで、技法や主題毎に展示し、年四回入れ替えています。三階には、ピカソ最晩年の三四七シリーズ、通称『エロティカ』から六十六点をピカソ本人が抜粋し、『ラ・セレスティニス』という本の挿絵として使われた



1号館展示室

展示されています。また、有島武郎の文学と美術のかかわりを資料パネルによって紹介しています。

当館は、現在、私設の美術館ですが、財団法人を設立し、コレクションの充実と、展覧会やコンサートの企画を立て、今後とも特色ある活動を継続して行なっていきたいと考えています。

### 〈荒井記念美術館案内〉

#### ★開館時間

五月〜九月 十時〜十八時  
十月〜四月 九時〜十七時

#### ★休館日

月曜日（祝日の場合翌日）

#### ★入館料

一般 一、〇〇〇円

高大生 七〇〇円

小中生 四〇〇円

\*十人以上の団体は各百円割引。

\*学校団体見学の場合は半額（要予約）。

#### ★交通

JR札幌駅札幌そごうデパート前から、中央バス特急「いわない号」で二時間三十分。岩内バスターミナルより

タクシーで約十分。同ターミナルからいわない高原ホテルまで無料送迎バス一日二往復。ホテルより徒歩二分。

★問い合わせ先  
〒〇四五 岩内郡岩内町字野東五〇五番地  
☎〇一三五六三二一一

（荒井記念美術館  
学芸員 釜沢恵子）

#### ◎北海道青少年科学館 連絡協議会から

平成4年度総会、第1回館長会議が4月23・24の両日、北網圏北見文化センターにおいて、12館18名の出席のもと開催されました。総会では、平成3年度事業及び決算、4年度事業案及び予算案について審議し、それぞれ、提案のとおり承認した。総会に続く永年勤続者表彰では次の各氏が受賞された。

佐藤典啓（勤続15年、室蘭市青少年科学館）

本多 進（同、同）

菅原章介（苫小牧市科学センター、勤続8年）

菅原章介（苫小牧市科学センター、勤続8年）

森 武夫(千歳市民文化センター、同)

2日目は施設見学で、京セラ(株)北見工場、北見工業技術センターを見学した。

今年度の職員研修会は、9月10(木)、11(金)日、千歳市民文化センターで開催される。

◎北海道ブロック春季飼育

技術者研究会

日本動物園水族館協会北海道ブロック加盟の技術者を対象とした研究会が、6月2日(火)、3日(水)、札幌市円山動物園で11館園18名が出席し開催されました。

2日間にわたって次の8演題の研究発表がありました。

- (一)アホロートルの奇形卵について(小樽、阿部小百合)
- (二)フンボルトペンギンの自然抱卵中の卵重の変化について(小樽、吹屋幸子)
- (三)ゾウ舎改修工事について(帯広、柚原和敏)
- (四)チリーフラミンゴの人工哺育について(円山、朝倉卓也)
- (五)アメリカワシミミズクにおける針状腹腔鏡を用いた雌雄鑑定について

て(円山、向井 猛)(六)オオハクチョウの巣作り行動と産卵(釧路、西村幸広)

(七)マルミミゾウの突発性起立不能について(旭山、曾我部義光)

(八)コディアックグマの人工哺育について(円山、田村康宗)

施設見学では、円山動物園、北海道開拓記念館を見学した。

秋季研究会は10月6日(火)、7日(水)、稚内市立ノシャップ寒流水族館で開催される。

◇館・園の主な行事◇

平成4年6月～8月

- 北海道開拓の村 8・8、9「開拓の村まつり」
- 札幌芸術の森 8・12～9・27「ホックニーのオペラ展」、8・30～10・18「北方面の生活クラフト展」
- 札幌市豊平川さけ科学館 7・12 野外実習「豊平川さかなウォッチング」
- 札幌市資料館 8・4～11・29「北の文学風物誌展(冬の巻)」
- 北海道立三岸好太郎美術館

6・27～8・6 特別展「三岸好太郎と三岸節子展」

●札幌市青少年科学館 7・24～8・16 夏休み特別展「感覚のふしぎ体験」

●北海道立近代美術館 6・13～7・12 特別展「イタリア未来派」、7・18～8・23「フィラデルフィア美術館展」

●恵庭市郷土資料館 7・25～8・30 特別展「北海道の蝶」

●北海道立函館美術館 6・27～8・2 特別展「アンリールソーとナイーフ美術館」

8・9～9・20「長崎の美術―3000年展」

●小樽市博物館 7・11～8・23 特別展「大正デモクラシー―小樽が市になつたころ―」

●小樽市青少年科学技術館 7・24～8・23 特別展「音の正体をさぐる」

●市立小樽文学館 7・18～8・30 特別展「山中恒展」

●小樽ヴェネツィア美術館 7・11～8・30 特別展「ヴェネツィア・ガラス・ロードTO

AFRICA」

●滝川市美術自然史館 6・20～7・19 特別展「手塚治虫展」、8・5～8・16「全道展」、8・23～9・6「フランス現代版画展」

●夕張市美術館 8・22～9・20 所蔵品展「郷土ゆかりの作家たち2」

●砂川市公民館郷土資料室 8・10月 特別展「全国郷土玩具展」

●美唄市郷土史料館 7・5～7・30「手作り人形展」

8・7～8・31「写真展―北海道写真真協会美唄支部3人展」

●北海道立旭川美術館 8・23～9・27「蝦夷の風俗画展」

●旭川兵村記念館 6・20～8・31「旭川神社鎮座1000年特別展」

●士別市立博物館 7・25～8・16 特別企画展「北紀行はっかいどう写真展」

●上富良野町郷土館 8月上旬 見学会「夏休み親子探訪ツアー」

●金田心象書道美術館 6・29 コンサート「心象館音

楽の夕べ」

●利尻町立博物館 7・1～8・31 期間展示「利尻の冬展」

●北網園北見文化センター 6・27～7・19 特別展「オホーツク秀作美術展」、8・1～8・23「近代映画名作と傑作芝居絵」

●網走市立美術館 8・5～8・23 特別展「開館20周年記念・オホーツクの美術展」

●美幌博物館・美幌農業館 6月上旬～7月中旬 企画展「博物館寄贈資料展」

●室蘭市民俗資料館 7～8月 特別展「戦中戦後のくらし」

●室蘭市青少年科学館 7月下旬～8月上旬「夏休み科学クラブ」

●苫小牧市博物館 7・19～8・16 特別展「北海道の土偶」

●苫小牧市科学センター 7～8月「夏休み親子科学教室」

●のぼりべつクマ牧場 7月「動物画コンクール」

●帯広百年記念館

7・18～8・23 特別企画展「松浦武四郎が見た十勝」

●北海道立帯広美術館

7・4～8・9 特別展「黒田清輝展」、8・14～9・15「緑の景・現代日本画の巨匠たち展」

●本別町歴史民俗資料館

6月中旬 特別展「矢じりの研究」

●釧路市青少年科学館

7月下旬～8月上旬 特別展「科学館フェスティバル92」

●厚岸町郷土館

8・1～8・16「国泰寺資料展」

(紙面の都合上、掲載は一部の行事となっております。)

◇平成4年度全国博物館大会

第40回全国博物館大会の開催日程は次のとおりです。  
期日：平成4年11月5(木)～6(金)日

会場：徳島県立博物館

◇平成5年度全国博物館大会

41回目を迎える全国大会が平成5年10月20日(水)～21日(木)、札幌市(会場：札幌市

教育文化会館)において開催されることになりました。

◇特別顧問制度の設置

平成3年3月27日の役員会での決議に基づき、次の各氏に協会特別顧問就任をお願いし協会活動強化にご尽力いただくことになりました。

石川十四夫氏(北海道議会議員)

神戸 典臣氏(北海道議会議員)

酒井 芳秀氏(北海道議会議員)

舟山 広治氏(北海道議会議員)

◇協会役員異動

新年度の人事異動等により次のとおり、役員の変更がありました。

〈副会長〉其田良雄氏(市立旭川郷土博物館館長、金子民男氏後任)・小笠原立男氏(釧路市立博物館館長、澤 四郎氏後任)・壬生竜之助氏(アイヌ民族博物館館長、岩崎誠一氏後任)

〈理事〉森永修正氏(札幌市円山動物園園長、金田壽夫氏後任)・関 秀志氏(北海道開拓記念館学芸部長、矢野牧夫氏後任)

◎平成4年度学芸職員 研修会

10月22日(木)～24日(土)の3日間、上士幌町榎平温泉文化ホールを会場に、「地域学(郷土学)をどうすすめるか」をテーマに開催されます。

◎平成4年度北海道博物館 活動交流推進会議

北海道開拓記念館他との共同開催の日程で開催されます。全道ブロック館長会議：4年11月10(火)～11(水)日 函館市、五稜郭タワー 道東学芸員等ブロック会議：4年11月7(土)～8(日)日 根室市、根室グランドホテル 道央学芸員等ブロック会議：4年11月19(木)～20(金)日 滝川市、滝川市丸加高原伝習館

◎事務局日誌

5・1 『協会ニュース』第38号発送。

5・7 31回大会について浜頓別町教委との打合せ。

5・22 3年度会計監査。

5・25 北海道生涯学習協会評議員会に会長出席。

5・27 31回大会補助金交付申請書類を道教委に提出。

5・28 『学芸職員部会ニュース』No.36收受。

6・4 31回大会要領、4年度会費請求書発送。

6・14 31回大会打合せ(浜頓別町、中田事務局長)。

6・27 滝川市教委より32回大会開催地内諾書類を受理。

6・30 第1回役員会(浜頓別町)。

7・1～2 31回道博協大会(浜頓別町)。

7・7 大会資料、30周年記念誌発送(大会欠席館園他)。

7・8 北海道美術館学芸員研究協議会の設立について報告を受ける。

7・9 4年度日博協顕彰候補者の申請について、加盟館園あて通知。

7・9 『博物館研究』8月号掲載の館園紹介執筆を道立オホーツク流水科学センターに依頼。

7・15 道東3管内博物館施設等連絡協議会(釧路市立博物館)おしらせ。

開拓記念館の人事異動等により、4年度の事務局体制は次のようになりました。

事務局長・中田幹雄、次長・丹治輝一、庶務担当・三野紀雄、氏家 等、事業担当・小林真人、右代啓視

○会費納入のお願い

本協会の円滑な運営のため、未納の会員はご協力をお願いします。

(銀行口座)

北海道拓殖銀行新さっぽろ支店(普通)1861287000 (郵便振替)小樽7129417

室、有島記念館、登別市郷土資料館、帯広市動物園、小樽天狗山スキー資料館、俱知安町教育委員会

(個人会員)中島宏一、津野 功